

PRESS RELEASE

太陽 ASG グループ 世界のオーナー経営者のストレス度意識調査

～ 主要 30 カ国・地域の中堅・中小企業オーナー経営者 7,000 人を調査～
2005 年、世界のオーナー経営者のストレスレベルは 1.5 倍に増大

- 主要 30 カ国・地域の全域でストレスレベルが上昇
- 6 割（57%）近いオーナー経営者が前年よりストレスが高まった
- ストレス増加と休暇日数に相関関係が見られる
- 日本の経営者の 60% が前年よりストレス増大を感じている

	2006 総合ストレス度*	休暇日数**
 台湾	89%	8
 中国（本土）	87%	11
 フィリピン	76%	12
 ボツワナ	74%	11
 香港	69%	11
 シンガポール	67%	11
 マレーシア	65%	10
 南アフリカ	65%	16
 ギリシャ	63%	17
 タイ	62%	4
 日本	60%	16
 ロシア	60%	17
 メキシコ	58%	13
 トルコ	58%	10
 インド	57%	13
30 カ国平均（中国含）	57%	15
30 カ国平均（中国除）	51%	16
 ドイツ	50%	21
 ルクセンブルク	49%	19
 アルゼンチン	48%	18
 オーストラリア	48%	13
 カナダ	48%	17
 アイルランド	46%	19
 ニュージーランド	46%	18
 ポーランド	46%	18
 米国	45%	14
 オランダ	43%	25
 英国	43%	22
 フランス	42%	27
 スペイン	42%	18
 イタリア	40%	20
 スウェーデン	24%	22

主要 30 カ国・地域で平均 50% アップ

グラント・ソントンの 2006 年度オーナー経営者の意識調査（IBOS）から、世界中のオーナー経営者のストレスレベルは、前年より 50% 上昇していることが明らかになった。

主要 30 カ国・地域の 7,000 人を超えるオーナー経営者を対象とした調査で、2004 年は前年よりストレスが高まったとする比率が 39% であったのに対して、2005 年は、オーナー経営者全体のうち 57% が前年よりストレスが高まったと回答し、前年調査の 1.5 倍に増加した。ストレスレベルが低くなったと感じているのはわずか 6%（前年は 14%）である。

経済諸国でストレス増大

ストレス度が前年より高まった国・地域のトップは、2 年連続台湾の経営者で、今回の調査では 10 人中 9 人が、ストレスが高まったと回答している。台湾に次いで高いのが、急速な変化を遂げている経済諸国の中国（87%）、フィリピン（76%）、香港（69%）、シンガポール（67%）、南アフリカ（65%）である。

地域別ストレス増加度

台湾を筆頭に、急速な経済の発展と体制の変化に直面しているアジアのオーナー経営者が最もストレス増加度が高い。上位 10 カ国・地域のうち、7 カ国・地域はアジア諸国である。

最もストレス増加が少ないのは、ヨーロッパと米国である。ただこれらの国々でもストレスレベルは大幅に上昇している。スウェーデンが全体の順位表で最下位になっており、同国でストレスの上昇を感じる回答者の割合は 24%、次いでイタリア 40%、スペインとフランス 42%、オランダと英国 43%、米国 45% が続く。地域間を比較してみると、ストレスが高まったと回答した回答者は、EU が平均で 44%（前年 35%）、NAFTA が 46%（前年 34%）、アジアが 70%（前年 53%）である。

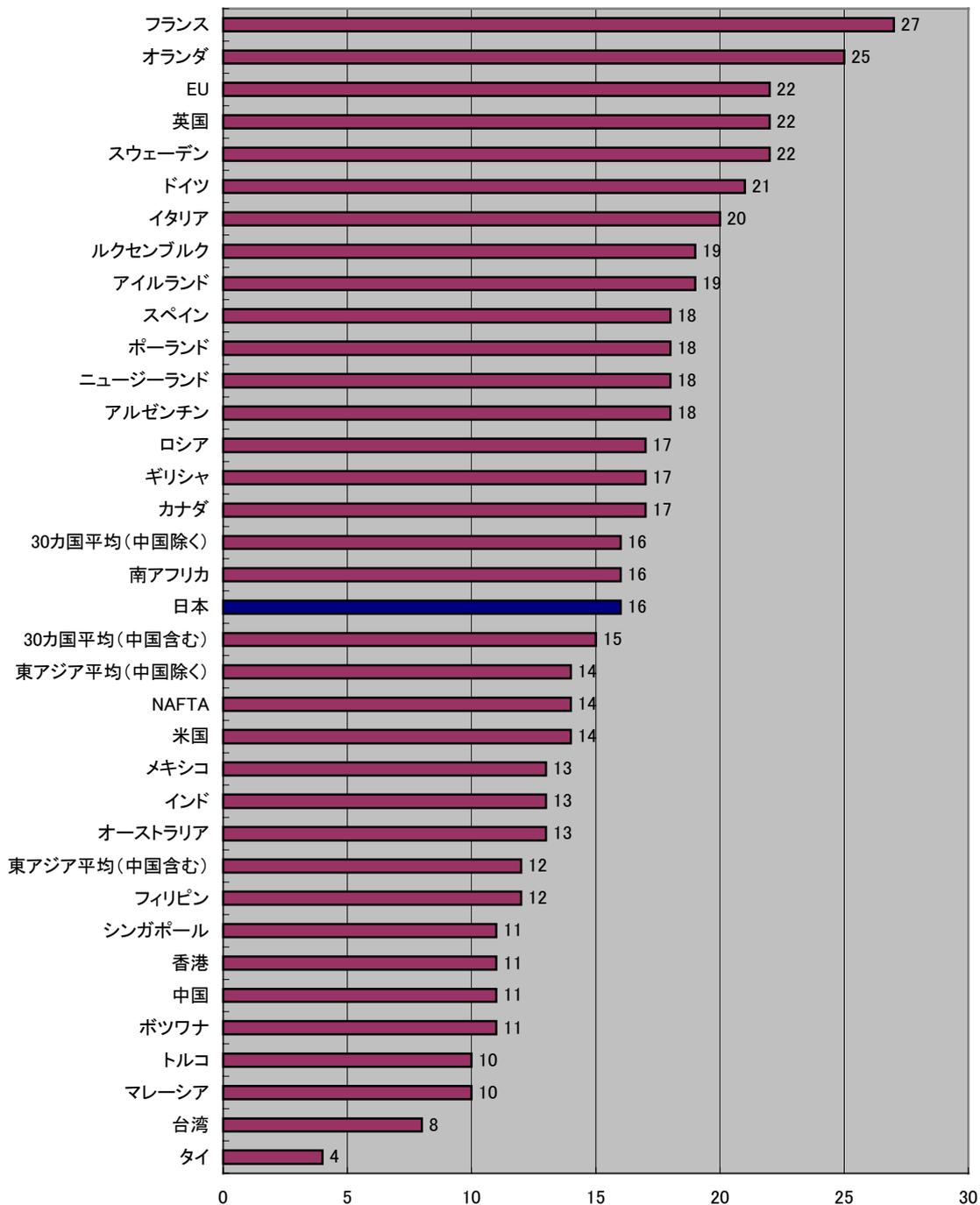
出典：Grant Thornton International 「2006 International Business Owners Survey」
*数値は「以前よりもストレス度が著しく増加した」「増加した」と回答した人の割合
**一昨年の取得休暇平均日数。黒字：30 カ国平均を上回る国 赤字：それを下回る国

日本で前年よりストレスが増大した経営者は60%、休暇日数は16日

ストレス増大について日本の60%は主要30カ国・地域平均の57%に近い水準であるが、EUの44%、NAFTAの46%より、かなり高い水準にある。ストレス増大について、アジアで日本より低い水準にあるのは、インドだけである。日本は前年の調査51%より9ポイント増加した。後述のとおり、急成長でも不況脱出でも、ストレスはかかる。

日本の経営者の休暇日数は16日で、アジアでは最も多く、米国及びNAFTAの14日をも上回っている。日本の場合、ストレス、休暇とも、ほぼ中間の位置にある。アジアで日本について休暇日数の多いのは、やはりストレス増加度が少ないインドである。

取得休暇日数（2005年）



休暇日数の傾向

休暇日数の順位表で最下位になったのがタイで、年間4日しか休暇をとっていない。台湾（8日）、マレーシアとトルコ（10日）がこれに続く。東アジアの平均休暇日数12日と比べ、ヨーロッパの平均休暇日数22日ははるかに多い。

世界の休暇順位表の1位はフランスで、平均27日である。次いでオランダ25日、英国とスウェーデン22日、ドイツ21日、イタリア20日である。

休暇日数とストレスの地域別特徴

調査から、ストレスと世界中の経営者がとる休暇の日数（定休日を除く）には、地域別に顕著な特徴が見られる。東アジアのオーナー経営者の大半は2005年に高いストレス増加を感じている。一方、休暇日数はヨーロッパ諸国の平均が22日であるのに対して東アジアは12日と大幅に少ない。「仕事熱心な環境」の米国では、取得する休暇日数は少なく平均14日であるが、ストレス増大はヨーロッパと同じ水準である。

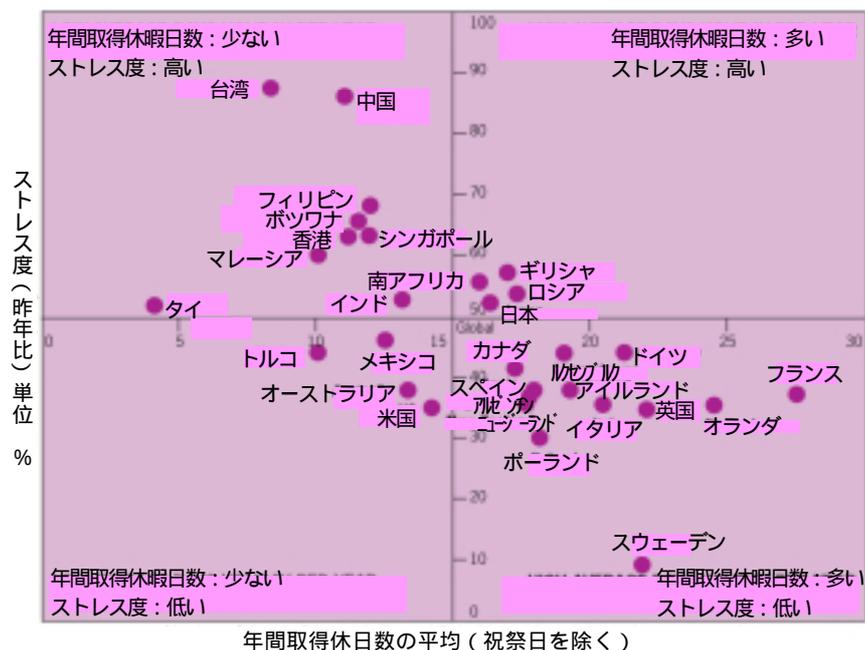
地域別に休暇日数とストレス増加の関係を見ると以下のようなになる。

	休暇日数	ストレス増加
EU	22日	44%
NAFTA	14日	46%
アジア	11日	70%

伝統的にヨーロッパで休暇日数が多いのに対し、アジア・北米もそれほど休暇日数が多いのは、ライフスタイルの相違によるものと推察される。

ビジネスから来るストレスと休暇の関係

ストレス増加と休暇に関する関係分布図



上図では、左上のストレスが高く休暇日数が少ない国から、右下のストレスが低く休暇日数が多い国へと、大きなトレンドが見られる。ストレス増加と休暇日数に相関関係があるとは断定できないが、少なくとも、分布図中右上の高ストレス・多休暇日数や右下の低ストレス・少休暇日数に該当する国がないことは明らかである。

アンドリュー・ゴドフリー（グラント・ソントン・インターナショナル パートナー）は次のように述べている。

「2005年には世界中でストレスレベルが急上昇した。これは経済活動が回復したか減速したかには関係なく、どの国でもだ。アジアのオーナー経営者は事業や市場が驚異的な成長をみせ続けているため特に過労となっているが、急成長の波に乗る時も、不況を乗り切ろうとする時も、同じようにストレスがかかる。」

「ストレスと休暇に相関関係が見られることに注目したい。経営者は休暇が増えると感じるストレスは少なくなるのか、逆に、ストレスが少ないほど、とれる休暇は多くなるといえるのか。いずれにせよ、世界中の休暇パターンの差は歴然としている。ヨーロッパ人がプライベートな時間をうまく利用しているのは明らかだ。ただ近年、東アジア諸国が知識と生産性を高めており、ヨーロッパの長期休暇型が長い目でみてどれだけ持続できるかは疑問である。」

以 上

オーナー経営者の意識調査 - 概要

- 実施期間： 2005年10月14日～11月28日
- 参加国数： 30カ国・地域
- 調査対象： 7,000名の世界の中堅・中小企業のオーナー経営者、または経営トップ
- 調査方法： 郵便による調査又は電話インタビュー（日本、フィリピン、インド以外は電話インタビュー）
- 調査実施会社： 日本では太陽ASGグループ（グラント・ソントン加盟事務所）が、株式会社日経リサーチに委託して日本国内における調査を実施。30カ国同時調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Experian Business Strategies Limited と Harris Interactive が取りまとめを行った。
- 分析手法： バランス統計手法 DI（Diffusion Index） 景気判断DI「良い」との回答比率から「悪い」との回答比率を引いた指数
- 本リリース中の数値は、各項目について（楽観的と答えた人のパーセンテージ） - （悲観的と答えた人のパーセンテージ）

太陽ASGグループ（グラント・ソントン加盟事務所）

- 所在地： 東京都千代田区永田町2-14-3赤坂東急ビル12F
- 代表： 本田親彦（公認会計士）
- グループ会社： 太陽ASG監査法人、ASG税理士法人、ASGマネジメント株式会社、ASGアドバイザーズ株式会社、株式会社サンライズ・インターナショナル・コンサルティング
- URL： www.gtjapan.com

太陽ASGグループは、世界112カ国・地域をネットする国際会計事務所「グラント・ソントン」の加盟事務所です。2006年1月1日付太陽監査法人とASG監査法人が合併し、太陽ASGグループを構成しました。国際水準の監査の他、オーナー系企業・中堅企業への各種業務・コンサルティングサービスの提供についてはトップクラスの実績を誇ります。

< 太陽ASGグループが提供する事業領域 >

監査・IPO・金融分野サービス・公益法人・事業戦略・国内税務コンサルティング・海外税務コンサルティング・評価・M&A/コーポレートファイナンス・対日/対外進出・システムコンサルティング・経理/財務アウトソーシング

グラント・ソントン

グラント・ソントンは世界第6位にランクされるグローバルな会計事務所グループであり、あらゆる規模の企業を対象に、監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。オーナー企業および独立系企業に対する専門サービスでは、世界のリーディング・ファームの一角を占めます。米国シカゴ・英国ロンドンを中心に、世界112カ国・地域、519ヶ所以上の拠点、2200名のパートナー、22,000人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では太陽ASGグループ（太陽ASG監査法人、ASG税理士法人、ASGマネジメント株式会社、ASGアドバイザーズ株式会社、株式会社サンライズ・アカウンティング・インターナショナル）が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

本件に対する問い合わせ先

太陽ASGグループ マーケティング・コミュニケーション担当マネージャー 田代知子

TEL：03-3595-0304（直通）

FAX：03-3595-0395

email：asgMC@gtjapan.com